



マチュ・ピチュ遺跡。インカ帝国の都クスコからアマゾン川上流沿いに東にくだった海拔2300メートルに位置する

マチュ・ピチュに ロープウェー

せき ゆうじ
関 雄二
(民族社会研究部)

(民族社会研究部

ペルーといえばインカ、インカといえばマチュ・ピチュといわれるほど、日本でもなじみぶかい遺跡がアンデス山中にある。一五世紀の後半から一六世紀の前半にかけて栄えたインカ帝国の代表的な遺跡であり、ユネスコの世界文化・自然複合遺産に登録されている。

遺跡と山の麓ふもとにある村とをむすぶ観光客輸送用のロープウェーを建設するという話がにわかに現実味を帯びたのは、一九九八年のことである。この時点で新聞報道は入札の完了を報じていた。問題は、観光担当の省がユネスコに知らせらず、強引に話をすすめた点にある。

ロープウェー建設を批判した新聞記事 (El Comercio 1998/5/17)

Esta semana se informó que habían cesado en ejecución la construcción de un teleférico en Manta Pichita. Que el capitán policial ocultaba la otra cara del problema: se habían festejado triunfos; y que (ultimo) se sentaron a Potomí y la Humanidad había sido dejada de lado. Y las informaciones técnicas sobre las consecuencias para los nómadas se extienden. Pero para cuando El DiarioVivo comenzó a investigar (conseguir queclaras en las entrevistas que publicó) descubrió más y más extensiones y más, tanto que, preocupautesas, ilumina el flamante concejalismo tendiente de minimizar en sus declaraciones el impacto ambiental, al señalar que los cables se pondrán de verde (sic). Todo esto obliga a detener el proyecto para evaluar con más tranquilidad y rigor si efectivamente el teleférico al santuario, llamadas a Pará, viajan a Cozum y expertos consultados en Lima ponen de relieve una situación muy grave.

懸念する大学生や市民はたちに抗議デモを開始し、ユネスコも批判キャンペーンを開催した。これにたいして落札した事業主は、「生態系に配慮して「鉄塔を緑色に塗ります」などとなさけない答えに終始した。最終的に観光次官は更迭され、あらためて環境や遺跡への影響を調査することになった。計画は現在も棚上げ状態にある。

この事件は、当時のフジモリ政権が推進していた経済優先政策と無関係ではなく、遺跡の農地への転換や、観光資源としての開発を許す法令の施行とおなじころに起きていた。

経済だけを重視する姿勢には危うさを感じるが、基本的には一国の文化行政の問題であり、反発されても政府は強行できたはずだ。しかし、それが無理だったのは、ユネスコという大きな力が働いたからである。一種のグローバル化の圧力といえよう。

もはや遺跡は、一国の歴史をささえるだけの資源とはいえず、人類の宝として、地球規模で保存に取り組むべき、という認識が一般化してきたのである。マチュー・ピチュの騒動は、行政の暴走にたいして、この人類の宝の大切さを訴える力が方向転換をうながした健全な例である。しかし、遺跡が守られればそれでよいのだろうか。

ローペウェーの起点となる村の住民は、旅のスピード化による観光収入の減少をおそれていたこともあり、計画変更には安堵しているが、遺跡の維持管理から運営まで一切の参加が許されない現状に不満を抱いている。遺跡は国家、あるいは人類の宝を求めて押し寄せる観光客だけのものではあるまい。むしろ周辺住民の積極的な関与があつてこそ、生きてくるものではないだろうか。